

「児童・青少年サービス研修」(図書館員対象)報告

6月24日(木)に行われた「児童・青少年サービス研修の、演習「ブックトーク」について報告します。

まず、講師の御前崎市立図書館吉住副館長からブックトークについてのレクチャーが行われました。テーマの設定の方法・本の選び方・プランの立て方・ブックトークの実際についてお話をうかがい、実際に台本作りにはいります。今回は「小学生を対象とした本の紹介」と設定し、また、事前にグループ分けとテーマ指定をした上で、グループで1本の台本作りをしました。(参加者は何冊か自分で選んだ本を持って参加)

「おはなし会の経験は多いものの、ブックトークを実際に経験することは少ないので…」と戸惑い気味の図書館員もいましたが、情報交換を交えながらわきあいあいと台本づくりは進められました。

以下、当日の課題テーマとそれに沿ってグループで選んだ本をいくつか紹介します。

「きたないもの」

- ・ 光れ泥だんご (講談社)
- ・ うんち (福音館書店)
- ・ うんこダスマン (ほるぷ出版)
- ・ うんちとおしっこのはなし (偕成社)
- ・ きみのからだのきたないもの学 (講談社)

「紙と私たちのかわり」

- ・ 紙の大研究 (岩崎書店)
- ・ 世界が見えてくる 身近なもののはじまり
トイレットペーパー (PHP研究所)
- ・ 環境とリサイクル 紙 (小峰書店)
- ・ かみひこうき (福音館書店)
- ・ トランプマンの科学マジック2
おりがみの手品 (岩崎書店)

「川から広がる」

- ・ なつのかわ (福音館書店)
- ・ 川のさかな (岩崎書店)
- ・ 川の生き物 (学研)
- ・ ホタルのくらし (偕成社)
- ・ うんがにおちたうし (ポプラ社)

「お金があれば」

- ・ ビジュアル博物館 18 貨幣 (同朋社)
- ・ たからげた (ほるぷ)
- ・ レモンをお金に変える法 (河出書房)
- ・ ねぼすけスーザのおかいもの (福音館書店)
- ・ ものの値段はどうやって決まるの (ポプラ社)

なお、研修会で作成されたブックトーク台本(10グループ)を御希望の方は、研究室 (tel:054-262-1243)までご連絡ください。 **配布は終了しました。**

「少年時代に出会った本」今森洋輔氏、講演会から

今森洋輔氏は「琵琶湖の魚」(偕成社)の著者で、写真家・今森光彦氏(子ども向けの昆虫写真絵本などの著書多数。福音館、小学館他)の弟さんです。

今森氏は子どもの頃、本は嫌いだったそうです。なぜなら、無類の本好きだった母親から、顔を合わせるたびに「本、読みや。」と言われたからです。

それでも、母親に読んでもらうのは大好きで、「おばけのラーバン」「てんぐのかくれみの」などは、大人になった今でも忘れられないとのこと。

また、見る本も大好きで、当時の画家が時間をかけてじっくりと描き上げていた「恐竜の本」「世界の蝶」「虫の一生」「動物の図鑑(学習図鑑シリーズ)」を“すごいなあ”“きれいだなあ”と繰り返し読みました。このことが現在の自分に影響しているのかもしれないとおっしゃっていました。(当時楽しんだ本は今でも大切にしており、講演会では、年季の入った「おばけのラーバン」が紹介されました。)

「琵琶湖の魚」では、捕まえた魚の側線にそって、ウロコに番号を振り、数を数えるところからスタートします。そして、本物に近い色を作り、彩色され、種類の魚は一週間かけて描かれました。

科学の本や図鑑類が好きな子にとって、このような制作裏話は興味深い内容であり、本をより深く読むきっかけになるように思います。また、今まで興味をもてなかった子にとっては、新しい発見のきっかけになるように思います。本を紹介する時の参考にしてください。

- 全国学校図書館研究大会 びわこ・くさつ大会より -

イベント・講習会情報

静岡県読書フォーラム・子どもフェスティバル

日 時 8月27日(金) 12:45~15:30

会 場 グランシップ

内 容 ・読み聞かせ・紙芝居・布絵本などのワークショップ

・講習会「紙芝居の演じ方」

童心社取締役編集長 池田陽一氏

問い合わせ 静岡県教育委員会 社会教育課

054-221-3163

長野ヒデ子 講演会

期 日 9月5日(日)

演 題 「絵本が生まれる時」

問い合わせ 吉田町立図書館

0548-33-3434

2004・第58回「読書週間」の標語が発表されました。

落ち葉をしおりに、読書の秋

読書推進運動協議会